

平成 2 7 年度第 9 回理事会議事概要

日 時 : 平成 2 7 年 1 2 月 1 8 日 (金) 1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0

場 所 : 林木育種センター小会議室

出席者 :	理事長	沢田 治雄
	理事 (企画・総務・森林保険担当)	鈴木 信哉
	理事 (研究担当)	田中 浩
	理事 (育種事業・森林バイオ担当)	渡邊 聡
	理事 (森林業務担当)	奥田 辰幸
	理事 (法令遵守担当)	百々謙治郎
	監事	鈴木 直子
	総括審議役	石田 祐二
	総括審議役	猪島 康浩
	総括審議役	水間 史人
	審議役	安樂 勝彦
	企画部長	高橋 正通
	総務部長	飯干 好徳

1. 開会

2. 議事

(石田総括審議役)

ただいまより、平成27年度第9回理事会を開催いたします。本日は議題が2件、報告事項が10件となっております。順次説明をお願いいたします。

(1) 役職員給与規程の一部改正について

(飯干総務部長)

資料Ⅰ－1をご覧ください。去る平成27年12月4日の定例閣議におきまして「公務員の給与改定に関する取扱いについて」が閣議決定され、国家公務員の給与について人事院勧告が完全実施されることとなったところです。当研究所におきましても、人事院勧告に準じた内容で労働組合に給与改定等を提案し、昨日、賃金改定交渉において妥結しましたので、その内容を踏まえ、職員給与規程の一部改正を行い、また、これと併せて役員給与規程につきましても一部改正を行うものです。

改正の主な内容は、資料にありますとおり、職員給与規程につきましては、一般職員俸給表の平均1.6%の引下げなど俸給表の改定、地域手当及び広域異動手当の支給割合の改正、単身赴任手当の基礎額と加算額の改正、特別給の支給割合の引き上げ、俸給の特別調整額の引下げ等となっております。役員給与規程の一部改正につきましては資料のとおりとなっております。

また、国家公務員の退職手当につきましては、「国家公務員退職手当法の一部を改正する法律」が平成27年4月1日に施行され、退職手当の調整額の改定が行われたところでありますが、当研究所におきましても、国家公務員に準じた内容で労働組合に規程改正等を提案し、賃金等改定交渉において決着した内容を踏まえ、職員退職手当支給規程の一部改正を行うものです。

以上、お諮りします。

(理事長)

本件議題は理事会として了承されました。

(2) 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定に向けた検討体制について

(飯干総務部長)

資料Ⅰ－２をご覧ください。平成２７年８月２８日に成立した「女性活躍推進法」では、平成２８年４月１日までに、自社の女性の活躍に関する状況把握・課題分析、これを踏まえた行動計画の策定・届出・公表、女性の活躍に関する情報の公表を行うこととされております。このため、当研究所に係る行動計画の策定等の作業を行うための検討委員会を設置するものです。

検討委員会は、企画・総務・森林保険担当理事を委員長とし、本所審議役、関係部課室長を委員として検討することとしております。また、作業は４月１日に間に合うよう別紙スケジュール表により進めていくこととします。

(理事長)

本件議題は理事会として了承されました。

(石田総括審議役)

本日の議題は以上です。続いて報告事項の説明に移ります。

(３) 早期退職者の募集について

(飯干総務部長)

資料Ⅱ－２をご覧ください。当研究所では、組織の年齢別人員構成を適正化し、組織の活性化を図るため、研究育種部門及び森林整備センターにおきまして、それぞれ、早期退職に係る募集実施に関する規程に基づき、早期退職者の募集を行っております。

(鈴木理事)

森林整備センターにおける早期退職者の募集はいつから行っていますか。

(奥田理事)

本年度からです。

(４) 森林保険センター統合リスク管理委員会の開催について

(猪島総括審議役)

資料Ⅱ－３をご覧ください。中期目標において、森林保険業務のリスク管理のための委員会において、毎年度、積立金の規模の妥当性の検証を行い、その結果を農林水産大臣に報告するよう規定されております。このため、森林保険センターでは、外部の有識者を含めた「統合リスク管理委員会」を設置し検討

しているところです。本委員会は、第1回目を7月10日に、第2回目を12月1日に開催し、とりまとめの方向性の整理を行い、報告案の作成作業を進めているところです。

また、本委員会においては、引受条件の今後の取扱いや加入促進活動等についても意見交換を行っております。

(理事長)

林野庁としても加入促進のための取組を行っていくと言っておりますが、当方としてどのような取組を行っているのでしょうか。

(猪島総括審議役)

市町村や森林組合連合会、各単組を直接回るなどして加入促進について協力要請するとともに、森林組合連合会等が行う研修会に講師を派遣する等の取組を行っています。

(5) 第4期中長期計画、平成28年度年度計画のスケジュールについて

(鈴木理事)

資料Ⅱ－5をご覧ください。次期中長期目標案については、去る12月15日に研発審の第4回林野部会が開催され、各委員からのご意見を賜ったところです。今後につきましては、1月12日に林野庁から総務省に対し次期中長期目標案を提出することとなっており、当研究所においてもこれに合わせ作業を進めており、2月12日に次期中長期計画策定に向けた検討本部で検討を行い、3月上旬に主務省へ中長期計画の認可申請を行うというスケジュールで進めることとしております。また、3月末までには年度計画を作成し主務大臣に届け出ることとなっております。作業スケジュールが例年に比べ非常にタイトになっていますが、期限等を厳守しつつ十分な検討を行い、より良い計画となるよう取り組んでまいりたいと思います。

(6) 台風被害に係る森林保険の対応について

(猪島総括審議役)

資料Ⅱ－6をご覧ください。本年8月の台風15号、その後の台風18号等により農林水産業関係で大きな被害が発生したことを受けて、林野庁長官から当研究所理事長あてに、「台風被害に係る森林保険の対応について」が通知されました。依頼の内容は、森林保険制度が林業経営の安定及び被災地の再造林を図ることを目的としていることに鑑み、関係機関と連携した被災状況の把握

や、被害に係る保険金支払い請求があった場合の早期査定などによる保険金の迅速な支払いに配慮することとを内容としております。

これを受け、森林保険センターとしましては、損害補填事務委託先に対し、損害調査等の迅速な対応に努めるよう文書を発出するとともに、センター内での査定事務の迅速化により保険金の早期支払いを図ることとしています。

なお、１２月１日現在の本年度都道府県別損害発生報告件数は資料のとおりとなっています。

（７）水源林造成事業地における台風被害の概要

（水間総括審議役）

資料Ⅱ－７をご覧ください。水源林造成事業地におきましても台風１５号による被害が鹿児島県北部において発生しております。被害面積は３２haで、今後、被害木の整理を行うとともに、改植についても検討していくこととしています。

（８）シンポジウム「スギにおける分子育種の幕開け」の開催結果について

（渡邊理事）

資料Ⅱ－８をご覧ください。林木育種センターでは、農林水産技術会議委託研究プロジェクト「新世代林業種苗を短期間で作出する技術の開発」のこれまでの成果を公表するため、去る１１月６日に東京大学弥生講堂アネックスにおきまして、「スギにおける分子育種の幕開け」と題しシンポジウムを開催しました。具体的な内容は資料のとおりです。なお、理事会終了後、詳しい説明を担当者から行うこととしていますのでよろしくお願いします。

（９）シンポジウム「山火事跡地の緑の再生」の開催結果について

（奥田理事）

資料Ⅱ－９をご覧ください。森林整備センターは、１１月１７日（火）に群馬県前橋市の群馬県公社総合ビルで、シンポジウム「山火事跡地の緑の再生」を開催しました。当日は、一般市民や林業関係者ら約２００名に参加いただきました。

具体的な内容は資料にあります。森林総合研究所気象環境研究領域の後藤領域長は、「山火事により被災した森林は、放置すると土砂流出などの二次災害の発生も懸念されることから、被災後の森林整備は、計画的かつ早急に行うことが重要」と言及されました。また、桐生市消防本部桐生消防署の赤石副署長からは森林火災の再発防止策、森林保険センター保険業務部保険審査課の伊

藤課長からは被災森林の復旧に役立つ森林保険制度の紹介などがされました。

当センターからも、関東整備局の相澤前橋水源林整備事務所長が「水源林造成事業による山火事跡地の再生」と題し、桐生山火事跡地再生に向けた水源林造成事業の取組等を報告しました。

講演後には、会場の参加者からの質問に対して、講演者による回答がなされました。後藤領域長からは「200ha以上もの大規模な山火事跡地では、植物の自然回復は困難であり、水源林造成事業のような整備事業による森林造成が必要。」とのコメントがあるなど、山火事防止や緑の再生の重要性について参加者の理解が深まったものと思います。

なお、本シンポジウムについては、翌日（18日）の毎日新聞と上毛新聞で報道されました。今後とも積極的な成果の公表に努めてまいりたいと思います。

（石田総括審議役）

報告事項は以上です。

これにて平成27年度第9回理事会を終了いたします。

次回の平成27年度第10回理事会は1月15日（金）に森林総合研究所特別会議室において開催予定です。

3. 閉会